

第3回学校支援実践研修会

IN 二本松市安達公民館

目的： 学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状について協議するなど実践を学ぶための研修会を行い、事業への理解を深め、学校支援事業や放課後支援事業関係者の資質の向上を図る。

日時： 平成26年12月10日（水）

場所： 二本松市安達公民館



実技研修 「レクリエーション教室（楽しいなわとび）」

講師 福島県レクリエーション協会 佐藤喜也 氏

実技研修「レクリエーション教室（楽しいなわとび）」では、福島県レクリエーション協会の 佐藤喜也 氏をお招きし、なわとびを中心としたレクリエーションについて、ご指導をいただきました。あだち地域子ども教室の子どもたちと一緒に活動する様子を参観することで、すぐに現場で使えるなわとびの指導方法を実践的に学ぶことができました。

【ご指導いただいた内容】

- なわとびの管理が大切である。縛ることでくせが付きふにゃふにゃになっているなわではうまく跳べない。
- 長さの調節が必要である。なわを片足で踏み、肘から脇の下あたりで長さを調節する。（跳び方の例）
 - ・ きめポーズ（なわを腕でクロスさせたポーズ）を最後に行う。
 - ・ 前跳びしながら回る。（跳んでいる向きを変える）
 - ・ タンバリンのリズムに合わせて跳ぶ。（リズムを変えながら）
 - ・ 指示のあった方を向く。（上下左右方向を向く）
 - ・ なわとびじゃんけんをする。（足でグー・チョキ・パーを作る）
 - ・ 駆け足跳び。（速さを変えながら／片足を前に振り出しながら）
- リズムにのって長く跳べることが大切である。子どものこの時期に心肺機能を高めてやる必要がある。
- 道具（とびなわ）はよい物を勧める。
- 跳べない子には、新聞紙を持ち手側にまいて直線を作ってやるとよい。
- 学校で跳べない子が放課後のクラブ等でも跳べなくて嫌な思いをさせたくない。学校と違う跳び方でよい。



〔実技指導の様子〕

実践参観 「あだち地域子ども教室」

あだち地域子ども教室は、毎週水曜日に安達公民館で実施しています。全学年を対象に約50名の登録があり、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所作りとして地域に定着しています。

この子ども教室は、地域コーディネーターや大学生のボランティアスタッフが学習支援をしたり、ゲームやスポーツをしたりして、学年に関係なく一緒に遊べるのが最大の魅力です。

参観当日は、大学生のボランティアスタッフが授業の関係で少人数だったため、残念ながらいつもの大学生を囲んで走り回る様子を参観することができませんでしたが、子どもたちはとても元気で活気にあふれた放課後子ども教室でした。

安達公民館では、地域の子どもたちを対象に土曜日にも『週末クラブ（将棋・茶道）』と『週末チャレンジ（野外体験活動）』を実施しています。

平成25年度文部科学大臣表彰を受けました。



〔宿題に取り組む子どもたち〕

御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

- ・ 他の教室を見ることはあまりないので貴重な経験となった。
- ・ いろいろななわとびの跳び方がありとても楽しかった。子どもたちと楽しく実践したい。
- ・ 佐藤先生のなわとびの指導はとても楽しくてよかった。
- ・ 室内活動が中心となる冬場にはなわとびは大変楽しめる活動なのでぜひ取り入れたい。
- ・ なわとびに興味を持たせるためのバリエーションのヒントとなった。
- ・ なわとびが苦手な子の対応を聞くことができてよかった。
- ・ タンバリンを使ったことはとても効果的であった。
- ・ 学校教育とは違った視点で子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらう必要性を再確認することができた。
- ・ 運動ができる施設がないので、室内で運動不足を改善するための方法の研修会を実施してほしい。

